

防災士の資格をとろう！

代表 前田 晃敏

として登録し、助成金をいた
 だきながら運営しています。
 最近の活動としては旭市総
 合防災訓練（八月三十一日）で
 飯岡漁港から展望館まで避難
 誘導を実施しました。是非こ
 の機会に防災士の資格をとり
 一緒に活動しませんか。

＊防災士資格取得希望の方は「NPO光と風」TEL&FAX047915715769に申し込んでください。締め切りは十一月十日まで。受講料一五〇〇円のうち、旭市在住の方は当会より九千円の補助があります。



震災から四年目。旧いお
 庄内の市営プールが四年ぶり
 に再開、また新たに防災資料
 館もオープンした。

*○は昨年の数

八、二五八人（一九、四七〇人）
矢指が浦海岸
二一、〇四五人（二一、七七〇人）
両海岸とも昨年より客数が
減少。週末の台風の襲来や、

夏のレジャーの多様化も原因の一つと考えられる。県内の他の海水浴場も客数減少の傾向にある。

二〇一二年 五五、八八〇人
二〇一三年 五九、八八〇人
今年も「九十九里観光再生
マリンスポーツグループ」が
主催した九十九里観光サーフ
フェスタが飯岡海岸で開催さ
れ大盛況であった。

市営プール入場者数

平成二二年 一〇、一一三人
平成二六年 六、四七八人
久しぶりに子ども達の歓声が
プールに響いた。早く震災
前の入場者数を取り戻したい。
防災資料館入場者数

七月十九日、九月二十五日までの合計二、四一六人の開館以来、市内外から多くの方が見学に訪れている。



開発・特産品シリーズ(1)
商品名「とまとKIDS」

市（旭市市民まちづくり活動
支援事業団体）代表・尾関淳
子さん。ご近所のトマト農家
さんから頂いたトマトを加工
し、甘くて柔らかなトマト寒
天を作ったら大変好評だった。
その後改良して無添加生菓子

「海へ」で第五二回藤村記念歴程賞を受賞した詩人

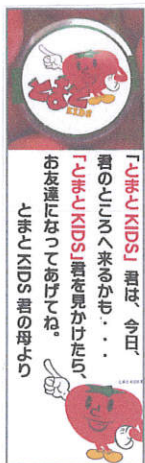
高橋順子さん



高橋順子さんは、読売文学賞など数々の受賞歴をもつが、この度、詩人の優れた業績が対象の藤村記念歴程賞の受賞が決まった（九月）。

高橋さんは旧飯岡町の出身。生家は海辺の近くにあつて、四年前の震災で一階が水に浸かるなど、大きな被害を受けた。海辺の町の幼い日のように、わたしの心は海のとこで憩うが、わたしの頭は津波の恐怖をなぞる――（「海へ」から）

生家にはご両親と弟さん家族が暮らしている。弟の進一さんは、震災の語り部として被災体験を後世に語り継ぐ活動をしている。



避難所としての学校

元旭市立飯岡小学校校長



間三交代制のシフトとし、常時五名以上を待機させ要望に応えるようにしました。避難者名簿の作成、物資の配給、ストーブへの給油、トイレの清掃、水の運搬、換気など支援に努めました。

私自身初めての経験であり、戸惑うことも多くありました。児童の安全確保を第一としながら、避難所としての学校、特に地域や行政との連携、協力はどうあるべきかなど、まだまだ十分とはいえません。「備えあれば憂いなし」想定外にも即対応できる防災体制の構築が急がれています。

―あの日を忘れない―
語り継ぐ私の津波体験

「津波がくるよ」



大地震の後、避難しようとしていた。二階に上がり支度をしながら、窓から海の方を見ていた。ふと黒い波がこちらに寄せてくるのが見えた。これが大変だと思ひ窓から「津波がくるよ」と怒鳴った。

が外家のび少しもんのでのととから
 つののしよ声ば二水格入した私
 折ス中は濡つて階につ子つた外
 れチは二れでつてくから戸てそに
 てル二で水は掛けてだ見つかたの
 いたの近寒は引いたさ一。間、
 の門くくていた一いた隣。と
 柱津波震いたが体は
 が波がえた。と何
 ねが入る。と何
 じ曲り。と何

歩くときめまいがする！

嶋田一豊さん（三川）



あの日は千葉にいて地震にあった。大きい地震だとは思わなかった。まさか津波で飯岡に被害が出ているとは思像もできなかった。幸い自宅は浸水を免れたが、飯岡バイパス沿いで経営している店が液状化による大きな被害を受けた。

店内の棚が倒れ大量の商品が崩れてがたがたになった。駐車場が陥没し、建物が北側に傾いた。最初の頃は、室内を歩くとめまいがして気分が悪くなった。修理するには多額の費用がかかる。

もっと魅力あるまちづくりをしていかないと商売もうまえないかと思う。新しい人も増

浦安市舞浜自治会が「避難所運営マニュアル」を作成

旭市を訪れ意見交換会

(九月二〇日)

浦安市は、東日本大震災で液状化による甚大な被害を受けた。その浦安市で今後の災害に備え、一浦安市舞浜小学校避難所開設・運営マニユールを作成。これをもとに旭ルーを制成。これを避難所運営飯岡地区で実際に避難所運営の現場を担った人たちと意見の交換を行った。

舞浜地区から二二名、飯岡地区からは一名が参加した。

尚、舞浜自治会が作成した「避難所開設・運営マニュアル」は事務局にありますので参考にした方は連絡を。



「まちづくり運動と連携の
在り方」を模索

銚子青年會議所

(九月二十四日)

た教・旭た方は委取
授戸を。に、員り銚
・井元講つ運会組子
船穰気師い動（む市
倉さんとての委地で
武んすし活継員域ま
夫ゝるて発続長経ち
さ千協、なと・済づ
ん葉議一討連岩活く
が科会花議携瀬性り
参学一とをの直化運
加大会緑行在之実動
し学長でつり）働に



防災ボランティアに
参加しよう

赤十字防災ボランティア
第四ブロック代表鈴木悦子



當時母（高野フクさん八六
 歳）は、平松の自宅に一人暮
 らしだった。気丈な人で近所
 に友人はいるし、デイサービ
 スにも通っていた。あの日も
 高台にある老人施設のデイサ
 ービスに出かけていた。



―あの日を忘れない―
語り継ぐ私の津波体験

行方不明の

母を捜して！

高野敏男さん（海上）

日時 九月二十一日(日)
場所、千潟萬力コミュニティセンター
内容、「災害を知ろう」「災害に備えよう」「赤十字の災害救護活動・防災ボランティアについて」「心肺蘇生法の学習。お昼には災害非常食を自分たちで作って試食します。」
申し込みはFAXで、047916212576鈴木まで

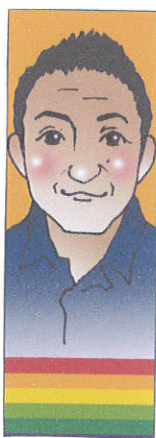
発行	編集
Tel & Fax 0479 (57) 5769	特定非営利活動法人 NPO 光と風

「悔しい」の一語に尽きる。

津波が胸まで届き！

消防署飯岡分署中隊長

菅谷新一さん

[illegible]

旭の仮設住宅を保存・展示へ

も消防車と隊員が戻つて来たので、交代で広報と救助活動に出動した。

夜八時頃、隊員が救助した人も含めて十人くらいが避難して来た。怪我をした人もいた。ので隊員で抱えて向かい側の郵便局の二階に一旦避難させ、その後バスで安全な場所に移動する事ができた。

火災と異なり自然災害は対応が難しいが、隊員は惨事ストレスを乗り越え、災害に備える準備は万全である。

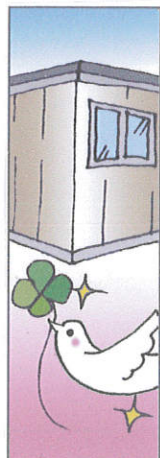
*飯岡分署は現在飯岡支所内に移転し活動している。

三年にわたる被災者の生活を
支えてきた仮設住宅は今年
七月で完全に撤去された。撤
去に先立ち、NPO法人「光
と風」は震災の教訓を伝える
防災教育に活用しようと、仮
設住宅一戸を飯岡地区内に移
設保存し、公開している。

これはNPO「光と風」が
保存活用を要望された（株）
三協フロンティアが無償譲渡
を快諾、運搬や設置費用も負
担してくれたことによる。

仮設の中はガス台やエアコ
ンなど当時使用していた備品
を充実させ、当時の生活を再
現している。見学の申し込みは

TEL & FAX 04795715769



地区区長会長に就任して



住み易い旭市構築に向け微力ながら邁進したいと思います。

「心を一つに、共に進もう」

A cartoon illustration of a middle-aged man with a friendly expression, smiling and winking. He has dark hair, a prominent nose, and rosy cheeks. He is wearing a light blue crew-neck shirt. The background is a solid red color. At the bottom of the page, there is a horizontal rainbow stripe with the colors red, orange, yellow, green, and blue from top to bottom.

河川の草刈清掃、花いっぱい運動も

海上地区区長会長 木内兵衛

接し、東に滝の里自然公園、仙瀧山龍福寺があります。わき水の豊富な自然豊かな部落です。

区の行事に河川の草刈清掃が年二回行われます。その他に花いっぱい運動が春と秋の二回行われ、各戸には花のプランター四つ、常に花が咲き誇っています。

こみせ口運動も区民が大変関心を持って行います。環境に
関心を持つ先輩達で作る、滝
郷農地・水保全管理会があり、
幾世区と清滝区の二区がこの
事業に参加しています。

三年半前の東日本大震災で、蛇園区・広原区で地盤沈下という大きな被害がありました。下。道路の陥没などがありましたが、今では皆さん頑張つて元の生活に戻りつつあります。す。一生懸命努力しますのて宜しくお願いします。



トピックス

強力な助っ人現る！
「流山のおばあちゃん」

「花と緑で旭を元気にするプロジェクト協議会」(会長・戸井穰)は、八月二日猛暑の中、たくさんのボランティアと共に見神社境内や永

井妙見様下コミユニテイガー
デ〇で、草刈の後、彼岸花二
五〇個、水仙〇〇個を植栽しチ
ユ一リッブ五〇〇個中生徒さ
た。今回は若い飯岡中生徒さ
んに混じって何と七、八歳の
酒巻きみ子さんという強力な
助っ人が登場した。

酒巻さんは「小さな森づくり
流山プロジェクト」(代表・
秋本五郎)の方々と流山市で
花と緑を増やす活動を行って
います。旭にもたくさん苗
木や球根をいただきました。
酒巻さんの話「旭の皆さん、
花と緑を育てて一日も早く元
気になって下さい」。



「稲むらの火」に学ぼう！
「稲むらの火」防災教育プロジェクト（鎌子）

「稲むらの火」は江戸時代に津波から村人を守ったヤマサ醤油七代目当主、浜口梧陵の実話を元にした物語である。災害時の大事な教訓が含まれており、これを紙芝居にしている。津波防災教育に役立てようと市内の小学校で市民ボランティアによる出張授業を行って、いる。六月に本城小学校で、八月は千葉科学大学の教員免許更新講習会で授業を行った。要望があれば市外でも出張授業を行う。問い合わせ04





平成二六年度
飯岡地区区長会長に就任して 会長 向後 充

復讐がわら版
いいおが津波。

発行 旭市上永井三二七
Tel & Fax 0479(57)5769

努力して暮らせる所になるよう
 から「復興かわら版」の原稿だ
 くてはと思うのですが、まだ
 恐怖心がありできません。今
 心がけていることは、もしも
 防災無線から津波情報の放送
 があつたら家の戸締まりをし
 て、近所の人と声を掛け合つ
 て避難所に徒歩で逃げようと
 考えています。みんな避難
 所にいれば安否の確認もとれ
 るし市役所の支援もうけられ
 ます。

毎年行われる防災訓練には
 欠かさず参加しています。

語り継ごう

私の津波体験

津波に押し流された！
佐久間海斗くん（小網町）



震災當時は中学一年だった。大地震の時は帰りのH.Rの時間です。皆パニックになった。先生は指示でグランドに集まり、そのから避難した。°保護者の迎えで順次自

宅に帰ったが、私が帰ったのは五時頃だった。テレビで津波警報が出たのを知ったが、たしかしいとこが来て逃げよう。と言うので、祖母といとこの四人で車に乗った。そこへどつと津波が押し寄せ車の中に飛び出してきたので思わず外にも入って来た。水は自分の背よりも深かった。私はちやうど流れ出てきた車の屋根に飛び乗り近く農協の建物に移るころが来た。祖母といとはそのまま流され溺れていたところを近くの人に救助された。

従業員と家族を連れて高台へ！

向後佐介さん（下永井）



大津波警報がでたので、仕事を中断し家族と従業員を連
 ねて車で高台に避難した。高
 台から大きな白波が海岸に押
 し寄せ、見るに及ばなかつた。
 かあれでまじに大きな被害が
 出たとは想像できなかった。
 余震が続いていたので明けた
 三時ぐらいまで車の中にいた。
 幸い自宅は海の近くであり
 ながら、津波による浸水はな
 かつた。ただ、海側の土地が五
 割ほど沈み、水が噴き出し、地
 割れが少しあるなどして改修し
 土砂を入れるなどして改修し

た。どこにいても災害はあるし、ここに住むことに不安は感じていない。

仮設住宅の解体すすむ！

被災者の暮らしの拠点となっていた仮設住宅は、七月中旬旭市の二地区にある計二百戸が撤去される予定。最後に残った入居者も五月中に退去し、一部は市営の「災害公営住宅」（復興住宅）に移った。復興住宅には現在三十二世帯、五十三人が入居している。

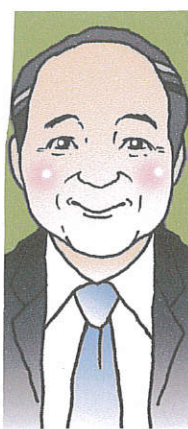
千葉県赤十字防災ボランティア
（海匝地区）に厚生労働大臣より感謝状！

(五月二十五日)

赤十字防災ボランティア（第四ブロック）の方々は、二〇一一年三月一日の大震災のあと、各地から集まった七千名余のボランティアさんの受け入れと活動支援を三月末まで続けた。多くの被災者から感謝された。この度のその功勞に對し、厚生労働大臣から感謝状が第四ブロックに贈られ、代表の鈴木悦子さんが受理した。

鈴木さんは「震災を忘れないことが大事だと思う。助けを待つ前に自分が出ること、を普段から身につけておくことが大切です」と話している。





頑張れ！
復興後押し「かわら版」
旭市総務課長 堀江通洋

復讐がわら版
いいおが津波。

発行	編集
Tel & Fax 0479 (57) 5769	旭市市民活動センター 旭市実業委員会 旭市運動会 旭市登壇団体

ふさいでいた瓦礫や泥砂を旭市建設業災害対策協力が撤去した。また全国から支援物資とともに、たくさんの方の温かい心が届いた。

三年が経ち、今では災害公営住宅の開設、避難タワーの設置、避難道路の新設と復興に向かつている。そんな中「復興かわら版」は体験談や復興した店舗の紹介など、被災者を入れた編集していて被災者の心に何かを届けている。この活動が復興を後押ししていると思う。被災者一人ひとりの体験は非常に重いものがある。今後も「復興かわら版」を長く続けていたいただきたいと思う。

―あの日を忘れない―
語り継ぐ私の津波体験

更地に花を！
伊藤きみさん（八軒町）



大地震の後、息子が電話で「津波が来るかもしれない。早く逃げろ」と言ってきた。隣家の人にも助けられ老人車を押して飯岡小学校に行った。三階に上がりテラスから海を見てみると白波が平松の方に



更地に花を！
伊藤きみさん（八軒町）

「地震があつたら必ず津波が来る」と父に教えられていたので、あの日もすぐに近所の人と一緒に飯岡小に避難した。海に近い自宅兼店舗は全壊し、避難所から五月には仮設住宅に落ち着いた。けれど震災後体調を崩した弟が急逝し、大きな精神的苦痛を味わった。心の晴れない仮設暮らしの中で、ご縁のあつた山田さんが私を散歩に連れ出してくれたことがきつかけでしばらく



「復興三人集」を発行！
今川 彩さん（川端町）

押し寄せるのが見えた。
「親戚の人が私を捜しに来て、もう大丈夫らしい」というので薬や貴重品をとり、自宅に戻った。この時は芝生が濡れて、再び車に乗る時、大きい波が堤防を越えるのが見えた。家族は無事だったが、自宅は天井まで水に浸かり全壊。「津波が怖い」という若い人の意見で今は海上に引つ越した。更地になった自宅跡に花を植えて、地元の人に楽しんでももらえればうれしいと思う。＊花と緑で旭を元気にするプロジェクトは、協議会（会長・戸井穰）は、伊藤さんの了解を得て土地の一部をお借りし、コミュニティを行っている。

休んでいた俳句を作り始めた。親戚の鈴木さんも応援してくれて三人三様の「復興三人集」が出来上がった。それぞれが辛い体験を持ちながらも一冊の本としてまとめられたことが大変うれしい。

＊一復興三人集

今川彩さん、山田純子さん、鈴木照代さんの三人が、それぞれ俳句、短歌、詩などの作品を持ち寄り本としてまとめられたもの。B6サイズ、九一ページ。表紙は薄紫の着物地に似た美しい仕上がりになっている。「大津波その時バイモさくばかり」今川彩

出版物の紹介

「東日本大震災と千葉県旭市」
― 地震・津波被災者支援活動の
記録 ―

旭津波被災者支援の会
平塚四郎編（エクリプス）
「2011年東日本大震災で
発生した千葉県北東部の津波」
旭市飯岡地域、銚子市沿岸部
の津波の記録

「語り継ぐいいおか津波」

―被災者聞き取り調査記録集―
光と風キャンペーン実行委

員会・発行（既刊）
三川屋、多田屋書
*いずれも
店で発売中

お知らせ

平成二六年度から、「復興かわら版」は隔月発行となります。ご意見や感想をお寄せ下さい。

戦争の悲惨さを語り継ぐ
「ピーススタッフ旭」の活動

埼玉県消防学校の若手消防官が県外研修で防災教室へ



地、旭大震災おから三年を
 乗、若手消一防九い
 一の。ワ仮し行一消一防九い
 活をしたタの乗一若と地
 かんで。ワ仮し行手、旭大
 しい語そ一設て一消一い震
 てたりのに住展五防九い災
 欲。部後実宅望三官歳お
 し。今さユ際を館名がかの
 の。後んーに見前は研らの
 活らト上学にバ修二現年
 動津ア体津合四訪歳を
 に波セ験波。台れま知た
 是体ンも避飯にたでろ被
 非験タし難岡分。のう災

力協公益
の友会(社
防災に取深組むる事業と海外
人学か二七名が被災。地・ネシ
いお井ぶりを訪れた。展望館昼はい
復興部さんから津波の体験談を
語り聞いた(通訳付き)。その後、
を聞き、千葉科学大学の学生や、
後千葉科学大学の学生や、
興まちづくりの仲間と交流を深
めた。

旭の魅力は自然が素晴らしなこと！

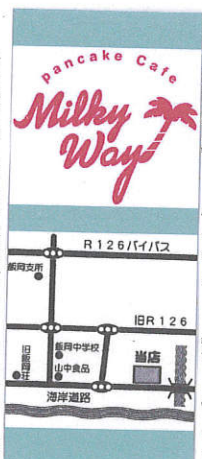
小山直樹さん（横根）



洋風海岸道路に沿いに小川に
家々の住まわす山につく。や
好いので生まるだサ一フ。
災害津波旭害にも遭つた前
そのれでても被しおいか海も
まちを然が素晴しいしめとい
まち施設を活も性化する光に
港のきとでもう観分めに活
ここのまだと思ふ。と自始め
考えてる。事業を始めたとい

海岸通りに湘南の賑わいを！

パンケーキカフエ
ミルキーウエイ オーフン



代表の松川奎吾さんは、七年前に東京から飯岡に引っ越し、釣りが趣味で飯岡に通ううち、気候の穏やかなこの土地が気に入ったと言う。しかし、せっかく美しい海岸線を持ちながら何も無いのが寂しいと感じていた。



そこ、地域活性化に役立つと考え、カフェの開店に踏み切った。夢は海岸通りにおしゃべりなお店が何軒もでき、若者が集まる賑やかな通りにしてゆくこと。

場所 旭市横根1353-36
TEL 0479-7417977
開店時間 十一時～夜十時
メニュー パンケーキ、各種ドリンク（お酒も含む）。

減災林の植栽にアイテアと参加者 大募集
花と緑で旭を元気にするプロジェクト協議会

現在、海岸で堤防のかさ上げ工事が行われています。防壁の完成後、飯岡海岸では堤防の外側（海側）に減災林を植栽する予定です。海風の強い場所にはどんな樹木が育つか、皆さんのアイディアや意見を募集します。

また震災で空き地や更地になつた場所に地権者の了解を得てコミュニティガーデンづくりをすすめていきます。他に、も空き地の活用方法があれば、ご意見を寄せ下さい。また、植栽活動のサポーターも募集しています。応募は官製ハガキで

応募先 旭市上永井二一七
 NPO 光と風 T&F A X 0 4

7915715769

旭市活動記録団体

かいまなぎしで見てくれた。い
ることに気づきました。
入つてゐた肩の力がすたと
抜けたので、自分は何もし
てあげられなかつた。おぼ
けれど、おぼあさん、こん
温かい目で笑わせることが
きたんだ、ほんの少しだけ
役にたつた、ほんの少しだ
皆さんは、今な多量の支
を必要としています。でも
と、会ふこと、そばにいて
が大事なんだと、気付けた
でした。

仮設住宅は震災の年の五月、旭地区（五〇戸）と飯岡地区（一五〇戸）の二箇所開設されました。津波や液状化の被害を受けて自宅に住めない方達が、安心して身を寄せる



事が出来る場所でした。しかしその仮設も今年（平成26年）の五月をもって閉鎖が決まりました。

現在の入居者数（二月現在）

旭地区 一四世帯
飯岡地区 五六世帯

仮設住宅を出た後は、復興住宅、アパート、親戚宅等と生活先は様々ですが、どうかお元気で過ごして下さいますように。

なお、仮設撤去後の跡地は震災前のスポーツ公園に戻すそうです。

復興住宅（災害公営住宅）とは、被災により住宅を滅失した住宅再建が難しい方を対象とした公的な賃貸住宅です。旭市が現在建設中の復興住宅は――

場所 旭市萩園
概要 鉄筋コンクリート造
三階建 エレベーター付き
戸数・種別 三十三戸。
一DK（十五戸）、二DK
（十五戸）、三DK（三戸）
屋外施設 駐輪場、駐車場
家賃 通常の市営住宅と同
じ設定だが、低所得者には特
別低減家賃が設定されている。

しかし六年目以降段階的に引き上げられ十一年目から通堂家賃となる。
 入居開始 平成二十六年四月開始予定。
 入居した方々が孤立しないように横の繋がりをしっかりと築いていって欲しい。

親の思いはー
小野芳子さんに聞く



海。岸。小。野。さん。の。自。宅。は、。飯。岡。の。五。つ。の。た。頃、。三。年。前。の。三。月。十。一。日、。あ。害。の。あ。る。会。社。か。ら。帰。つ。て。き。た。障。害。の。あ。る。幸。い。な。消。防。団。員。の。助。け。を。受。け。た。が、。仮。住。宅。で。暮。ら。し。て。お。り。た。め、。一。年。前、。小。さ。な。家。に。引。越。し。た。た。小。野。さん。は。こ。う。し。た。自。分。の。体。験。か。ら、。災。害。や。震。災。に。遭。つ。た。子。を。助。け。ら。れ。ば。障。害。を。持。つ。た。考。え。て。い。る。一。つ。の。障。害。者。が。会。社。や。作。業。所。に。通。つ。て。い。る。ま。い。で。事。業。所。に。留。め。て。も。除。け。ら。れ。る。と、。親。は。安。心。で。き。る。か。も。し。れ。な。い。二。つ。の。大。勢。が。集。ま。る。避。難。所。に。適。応。出。来。な。い。障。害。者。の。場。合、。一。時。的。に。近。く。の。施。設。に。入。居。で。き。な。い。だ。ら。う。か。三。つ。の。親。が。い。な。く。な。つ。た。場。合、。障。害。者。が。自。立。し。て。生。き。て。い。け。る。よ。う、。グ。ル。ー。プ。ホ。ー。ム。の。可。能。性。を。模。索。し。て。い。る。





中学生が防災教室＆ボ
ランティア活動
船橋市立船橋中学校のみな
さん
(二月十六日)

(二月十六日)

一、設置場所 旭市イ地先（網戸地区）旭中央病院アクセス道路の沿線

二、施設
休憩施設 駐車場、トイレ、

緑化スペース
情報発信施設
(道路・防災・観光・物産)
・イベント情報等
地域連携施設
農水産物直

地域連携施設 農水産物直
売所、加工施設、バイキ
ングレストラン、イベン
ト広場

三、その他 防災備蓄施設、太陽光発電施設

四、平成二七年度 建設工事、

＊開業
問い合わせー旭市役所企画
政策課 政策推進班

参加した生徒の感想

め、今回、自分たちが復興のた
でしかないが、それでも地域
の方に「ありがとう」と言わ
れども出ることは小さなこ
とだが、小さなことを積み重
ね成長していきたい。

今回の防災教室（木村仁哉君）の
高さの大切さ、当たり前の前
の生活することへの感謝、
そして普段の生活での自分
の甘さを知ることができた。

(中野敦史君)

昨年十一月十五日の市議会議員選挙で初当選した、新議員に抱負をお聞きしました。

敬称略。

有田恵子（下永井、無所属）



一、美しい九十九里の海と中央病院が旭市の財産です。これを大事にしてアピールしてゆきたい。

二、高速道路を銚子まで延ばすなど、まず交通インフラを整備して外からお客が来やすくしたい。

三、税金の無駄遣いを無くし旭中央病院の健全経営を図り、次の世代につけをまわさない政策をとります。

米本弥一郎
(鎌数、無所属)



一、少子高齢化は旭市に限ら
ない。人口が減少しても過ご
しやい。すいまちにしてゆきたい。
二、若い人たちが働いてゆけ
るまちにしたい。そのために
は、農業を含めて地元商店や
事業所などの地場産業の活性

三、高齢化に合わせ、医療、介護の力を入れたが、住民間の横の繋がりが健康づくりの大切な要素だと思ふ。

磯本繁(二、無所屬)



一、旭市はいくつもの恵まれた環境を持ちながらそれが活かされていないと思う。旭市の過疎化に歯止めをかけ活性化させたい。

二、そのためには旭市に企業を誘致し、若い人が働ける場所を作ることが大事だ。

三、また豊富な経験とノウハウを持った高齢者が活躍できる場をつくりたい。例えば子育て支援など、貴重な戦力になると思う。

ニュース・ニュース

旭市の県立東総工業高校電
子機械科三年の吉田将之さん
が、第二十一回高校生ロボッ
ト相撲全国大会で自立型部門
で優勝、横綱となった。その
報告会が二月十日に行われた。

あさひ福祉会（旭・飯岡復興弁当研究会）が千葉県の「食のちのぼり逸品を発掘」の審査で見事銅賞に輝いた。二月二十一日に授賞式があった。

旭市立飯岡小学校

校長 平野一男

発行	編集
Tel & Fax 旭市上永井三二七 0439(57)5769	旭市市民活動登録団体 光と風キヤンペーン 実行委員会

飯岡小学校で防災教室を開催
津波避難を学ぶ
飯岡小では、千葉科学大学の船倉武夫教授を招き、防災教室を行った。授業には、六年生九〇人が参加。津波の早さのクイズや、測量用スケールで防波堤の高さを児童に実感させた。

また紙芝居劇団「ふく」が津波避難を教える「あか防災ずきんちゃん」を上演。児童は楽しみながら津波などへの対応を学んだ。



きたと考える。それとともに今あの教訓を忘れずに自らの命を守り抜く「自助」、そして他者を思いやり共に助かるための「共助」をしつかりと学び続ける使命も果たさねばならない。

今年（平成二五年度）は、津波からの避難訓練として塙方面への「手つなぎ遠足」を保護者や関連機関の協力を得て実施した。子ども達と職員とのまなざしが真剣そのものであったことは言うまでもない。

私の津波体験

シヨツクが大きすぎて！

若林登美子さん（海上）

海地震の後、全員の自宅は液状化で土台が傾いた。家が散乱した状態だった。いたが、二ヶ月間、頭痛がして、避難所になくた家の中に入り、気が持たない。くた家の中に入り、気が持たない。いたが、二ヶ月間、頭痛がして、避難所になくた家の中に入り、気が持たない。いたが、二ヶ月間、頭痛がして、避難所になくた家の中に入り、気が持たない。

不安と期待と！

生田早苗さん（下永井）



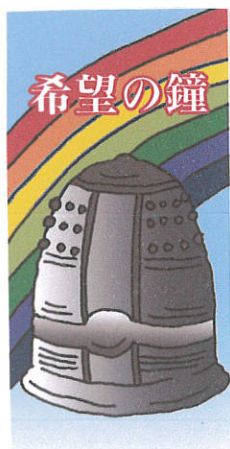
大地震は本當に怖かつた。外
を流れてきた波が家の前までサ
を見て家族と飯岡急いで靴を
履いて避難した。五月の後の
ンターに五月份に仮設住宅

に入つた。
二階は津波が二階近く入り
し、といふので、解体した。難
仮設には慣れたが、やはり自
分の家が良かつた。二家族の
で復興住宅にも入れず、今は
アパートを考へている。

東日本大震災三周年
「語り継ぐいいおか津
波」の集い

牲を早いものでも迎えた大きな被害と犠
 牲から三年を迎えた3、1津波
 か後世に伝えたい。この年に
 害を、旧JAEA跡地に、献花を
 するとき、思いと願つ

一、日時 平成二六年三月十一日 午後二時半～六時
二、会場 旧JA跡地（旭市飯岡二二八九）
三、内容 テント・花壇の設営（物品の販売・休憩所）忘れ時の時計、献花台、記帳台、希望の鐘
紙芝居、ミニコンサート
四、主催 「3，11語り継ぐいいおか津波の集い」実行委員会
*会場には駐車場、トイレなどの用意はありません。



花と緑で旭を元気にするプロジェクト

サポーターを募集
花プロジェクト協議会

このプロジェクトは、被災地・千葉旭市に暮らす人々と共に、地縁を活かし、旭市とボランティアが協働して花と緑のある生活を取り戻すことを目的とした活動で、誰でも自由に参加できます。

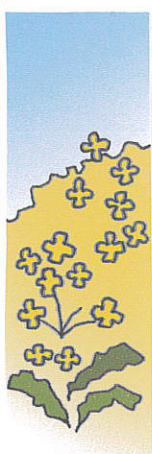
活動内容

① 3. 11 いろいろ津波を語り継ぐ集い
今回は「花が咲く集い」の実現を目指し、今後も地元での開催できる体制を作っていきます。

② コミュニティ・ガーデンづくり
震災で荒れたままの空き地を地区ごとに「小さな庭」にしていく試み。昨年の十二月から地元住民とボランティア、大学生による花の植え付け作業が始まった。地域に花と笑顔を増やしていきます。

③ 行部岬・遊歩道の整備
ボランティアと旭市の協力で清掃活動をしています。避難道として活用したり、花や緑を楽しみながら市民が散策できる場所にしませんか。

* サポーターのお申し込み
旭市企画政策課 6215307
NPO 光と風 5715769



防災士試験 六名全員合格

昨年の一月二日、二日に防災士の公開講座を実施。受講者全員が見事、試験に合格した。受講料は一万五千円だったが、「NPO 光と風」の補助があつた。

防災士は「社会の中で減災と防災力向上のための十分な知識や技能」を学んだ人で、今もつとも必要とされる資格です。「NPO 光と風」は今年も防災士を目指す人を応援します。(合格者) 高橋進一、山田平澤つぎ子、伊藤嘉伸、山田紘義、北村博史、渡邊義美、敬称略)



ニュース・ニュース

三基目の津波避難タワーの建設が決まった。場所は飯岡郵便局前、元飯岡消防署のあったところ。飯岡二一六四一。

高さは地上から十メートル、収容人員は百名です。費用は約四千万円。着工時期は未定だが年内には完成の予定。

ここも津波被害が大きかった地区で、緊急の避難場所としての活用が期待される。なお四基目の津波避難タワーは富浦地区に予定されている。

旭市議会 新人議員の抱負

市議会議員選挙が昨年十二月十五日に行われ、二十二人が選ばれました。初当選した新人議員に抱負をおききました。(第一回)。敬称略。

宮内 保 (萩園、無所属)



一、まず震災からの復興に力をいれたい。三年経った今も被害に苦しい人たちがいる。被害の大きかった飯岡地区の復興が、旭の発展にも繋がると思う。

二、農業の発展に力をいれたい。具体的には各方面と協力しながら土地改良と環境整備をすすめる。合理化を図りながら後継者の育つ農業に、取り組んでいきます。

高橋秀典 (鎌数、無所属)



一、旭まちづくり市民参加を推し進めていきたい。市民が旭の魅力を再発見し、市民が

林 晴道 (後草、無所属)



そこでの生活を楽しくしていきたい。地域の課題を掘り起こし、その解決に向けて市民の意見を行政に反映させてゆきます。

三、若者が新しい企画を作ったり、チャレンジしやすいように、くみをつくりたい。

四、グリーンツーリズム(農業体験)とブルーツーリズム(漁業体験)を結合した、旭ならではの観光ストーリーを開発してゆきたい。また既存の活動のネットワークづくりにも取り組めます。

一、旭市民の命と幸せが一番です。そのため医療・介護や経済・雇用の問題にとりくんでいきます。

二、復興については、被災した地域や市民が何を必要としているのか、対話をふれあいを大切にして、民意を市政に反映させます。

三、生活困窮家庭などの、格差は正にとりくみます。

募集！皆さんの投稿やご意見をお寄せ下さい。掲載させていただいた方に、復興井ぶりお食事券をさしあげます。(旭市上永井 一二一七、NPO 光と風)

千葉県立東部図書館
副館長 田所利光

復讐がわら版
いいおが津波。

発行	編集
Tel & Fax 旭市上永井三二七 0439(57)5769	旭市市民活動登録団体 光と園キヤンペーン 実行委員会

沿岸に大津波が押し寄せていたことを知ったのは翌日になつてからだつた。

当図書館の被害は、本の落下が約千冊、書架の湾曲五箇所、ガラスの破損二箇所等と幸い少なかつたが、ガスの供給が停止したため空調設備が使えず断水も続いたので一二、一三日と臨時休館した。

最後に県立図書館では、震災の記憶を風化させないため震災関係の資料を収集している。是非、協力をお願いしたい。

目の前で家がバラバラにな
った！

常世田具福さん（後草）



大地震の後、飯岡にあるお寺を車で見に行つた時は何でもなかつた。自宅に戻ろうと旧道から海岸道路に出て、三川の目那川を超えたところで急に川の方から波が上がつてきた。目の前の二階建ての家が波に呑み込まれて一瞬にして

「津波発生、旭に向かつて
いる！」

旭警察署矢指駐在所
譜久村智宏巡查長



バラバラに崩れてしまった。
 もの凄い勢いだつた。
 自分の車を含めて前後に五
 台ぐらい走つていたが、全部
 波で浮き上がりプカプカ流さ
 れていつた。私の車は川を越
 えて田んぼに流され、やがて
 溝にはまつて動けなくなつた。
 水は車の中の私の臍のあたり
 まできたので、ハンマーで窓
 ガラスを割り外にでた。水が
 引くとあたり一面海砂で埋ま
 つていた。
 幸い、命は助かったが「地
 震があつたら海に近寄らない
 こと」を肝に銘じている。

避難を呼びかける

震に遭つた。署に帰る途中、地
震に遭つた。津波が来るかも
しれないと思ひ矢指駐在所に
戻つた。海岸には親子連れや
サーファーが多くいたので笛
やバイクのクラクション、大
声を出すなどして、全員を海
から避難させた。

十五時四十分頃、水平線が横一線に盛り上がり白波が立ち上がった。「津波発生、旭に上かっている」と無線で署に報告。津波は近づくにつれ不

気味な轟音が次第に大きくなつた。白い風もやがたち、波の力で空気が津波の到達は予想せよきた。早いと感じた。

男性が

と自分も避難しようとしてふ
と後ろを振り返ると、一人の
男性が海に向かつて歩いて行
く。夢中で追いかけて「戻れ
と叫んだ。この時堤防から二
十メートルを超える波飛沫があがり
男の腕をつかむ。波の中をぐける
呑み込まされた。波の失いける
ぐると回されて。海面が顔が
たがよう。近くで溺れて捉まら
に救う器具を投げつけて、男性

家族、近所との絆が大切

災害や震災はいつ起こるか
わからぬ。日頃から家族と
避難場所や逃げ道などを確
し合い、近所の人も声を掛
け合うようにしましょう。

「移動交番車」のお知らせ

旭警察署では昨年四月から、防犯力の強化及び市民の安心感の醸成に大きく貢献できるものとして移動交番車を配備

は旭市役所の、
矢指等、派遣
住宅が、仮設
要望もある、
動開け、出る
各種届、お立
各等気、さい。
談寄、り下、い。



一日時 平成二六年二月一五目

(土)午後一時三〇分〜午後

二会場 千葉県立東部図書館

三、内容

①震災から学んだこと
千葉科学大学教授

②防災教室・紙芝居「スリランカ版いなむらの火」

③東日本大震災、防災関連資料・情報の紹介

④「千葉県立東部図書館の復興かまちづくり」とこれ

⑤ 語り部の話 渡邊義美
語り継ぐ会 小野芳子

⑥ いしかに佐ねる民話
紙芝居「天の石笛」

劇団ふく

四主催
五協力
N P O 法人
千葉県立東部図書館
光と風

六參加者定員 六〇名。申し込み先着順（入場無料）

七 申し込み方法
来館または電話により受付。

事前申し込みは一月五日
(日)から受け付ける。

TEL 0479-16217337

わけて館内に展示します。
展示期間一月一九日～三月

二日までに（予定）

久留里城址資料館
「天災ときみつ」展へ
四十三名が参加

あし千り一室と君くな施発久少
 つい羽継3で君津れたど、し留し秋
 った紅鶴ぐ旭津市た。んた。里風晴
 一葉を集1に市から。古が。城はれ
 日とい11来からは交流会をもつた。
 でとだにいたは昨春、防
 した。に心おたは、災
 旧てのこ津波を、教
 交る。もつた語
 を暖め美



君津市
マスコットキャラクター
きみぴよん

行部岬遊歩道研究会（仮）
会員募集

ど活ボ　　ばかた呼　　が永み
明動ラ　　れら。ば江　　ある井な
るをン　　ては明　　れ戸　　こととさん
いしテ　　い治人　　代　　を　　は、
散たイ　　つに　　が　　には　　永　　行
策結ア　　れか　　行　　は　　井　　部
に果の　　て銚　　き　　銚　　つ　　岬
適、人　　き　　古　　道　　う　　海　　に
した違　　を　　道　　と　　道　　遊　　至
遊えが　　機　　と　　き　　で　　歩　　る
歩ほ　　に、　　呼　　て　　し　　も　　道　　下

になりました。
 こうした活動に関心を持つ
 人たちが、災害に備えて避難
 道として活用したり、ふもと
 の海津見神社周辺を綺麗にし
 て、観光を兼ねた遊歩道にし
 きないか、と研究会をつくり
 ました。

一月に総会をひらきます。関

心のある方、参加したい方は、
 左記へ連絡してください。

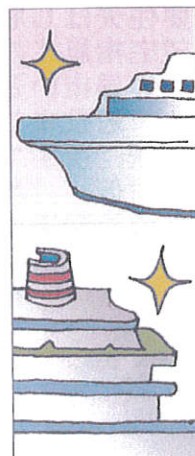
N P O 光と風 04791571
 5769 受付十時〜午後四時



飯岡地域統合保育所（仮）
の建設すすむ

の飯岡地域の飯岡中央、三川
朽二つの保育所は、施設が老
め、化し耐震性に課題があるた
支所の敷地を活用して建設す
ることになった。

人物紹介
日本を代表する模型作家
宮内晴美さん



宮内晴美さんは震災の四年
前、ご夫妻の故郷である旭市
飯岡に転居。ようやく故郷で
の新しい暮らしに慣れた矢先、
津波で命を落とされた。享年
六六歳だった。

晴美さんは、船の模型を専
門に製作する、日本を代表す
る模型作家の一人。津波によ
って多くの模型が破損したが
かろうじて破損を免れた作品
がある。妻の三代子さんは夫
婦の夢を載せた模型船を、自
分の手元に残すより今は、太
事にしてくれる人に譲りたい
と考えている。（問い合わせはN
PO光と風 Ⅲ 5715769）

ネにも配慮している。新保育所は三月に完成し四月からの開所を予定している。





自主防災力を高めるために

防災士の資格をとろう！



旭市防災士・サービス介助
士ネットワーク
代表 前田 晃敏

旭市は東日本大震災において、津波による甚大な被害を受けた。私自身も被災し、被災者支援活動に従事している。防災士とは、災害発生時に、被災者の安全確保や、避難誘導、被災者の生活支援などを行う。旭市では、防災士の養成講座を開催している。この講座では、防災士の資格取得に必要な知識・技能を学ぶことができる。また、旭市では、防災士のネットワークを構築している。このネットワークを通じて、防災士の連携を促進し、自主防災力を高めることに努めている。

として登録し、助成金をいただきながら活動しています。最近の活動として、旭市総合防災訓練（八月三十一日）で、飯岡漁港から展望館まで避難誘導を実施しました。是非この機会に防災士の資格をとり一緒に活動しませんか。

＊防災士資格取得希望の方は、
「NPO光と風」TEL&FAX
047915715769に
申し込みください。締め切
りは十一月十日まで。
受講料一五〇〇〇円のうち、
旭市在住の方は当会より九千
円の補助があります。



震災から四年目の夏。旧いおかの市営プールが四年ぶり
に再開、また新たに防災資料
館もオープンした。

海水浴客数

＊〇は昨年の数
飯岡海岸 八、二五八（一九、四七〇）人
矢指が浦海岸 二、〇四五（二、七七〇）人
両海岸とも昨年より客数が
減少。週末の台風の襲来や、

夏のレジャーの多様化も原因
の一つと考えられる。県内の
他の海水浴場も客数減少の傾
向にある。
サーフィン客数（飯岡、中谷
里）
二〇一二年 五五、八八〇人
二〇一三年 五九、八八〇人
今年も「九十九里観光再生
マリンスポーツグループ」が
主催した「九十九里観光サー
フェスタ」が飯岡海岸で開催さ
れ大盛況であった。

市営プール入場者数

平成二二年 一〇、一三三人
平成二六年 六、四七八人
久しぶりに子ども達の歓声
がプールに響いた。早く震災
前の入場者数を取り戻したい。
防災資料館入場者数
七月十九日～九月二十五日
までの合計 二、四一六人
開館以来、市内外から多く
の方が見学に訪れている。



開発・特産品シリーズ(1) 商品名「とまとKIDS」

開発したのは、あさひ物産
市（旭市市民まちづくり活動
支援事業団体）代表・尾関淳
子さん。ご近所のトマト農家
さんから頂いたトマトを加工
し、甘くて柔らかいトマト寒
天を作ったら大変好評だった。
その後改良して無添加生菓子

人物紹介 (二)
「海へ」で第五二回藤村記
念歴程賞を受賞した詩人
高橋順子さん



高橋順子さんは、読売文学
賞など数々の受賞歴をもつが、
この度、詩人の優れた業績が
対象の藤村記念歴程賞の受賞
が決まった（九月）。
高橋さんは旧飯岡町の出身。
生家は海辺の近くにあつて四
年前の震災で一階が水に浸か
るなど、大きな被害を受けた。
「海辺の町の幼い日のように
わたしの心は海のとこで憩
うが」
わたしの頭は津波の恐怖をなぞ
る「海へ」から
生家にはご両親と弟さん家
族が暮らしている。弟の進一
さんは、震災の語り部として
被災体験を後世に語り継ぐ活
動をしている。

として商品化した。旭産とま
とを百%使用し赤ちゃんから
高齢の方まで安心して召し上
がれる（九十九、二百円）。
あさひ福幸弁当にも使われて
いる。十一月十五、十六日三
川店舗で試食販売を行う予定。
TEL 0801506516681



避難所としての学校

元旭市立飯岡小学校校長



間三交代制のシフトとし、常時五名以上を待機させ要望に応えるようにしました。避難者名簿の作成、物資の配給、ストーブへの給油、トイレの清掃、水の運搬、換気など支援に努めました。

私自身初めての経験であり、戸惑うことも多くありました。児童の安全確保を第一としながら、避難所としての学校、特に地域や行政との連携、協力はどうあるべきかなど、まだまだ十分とはいえません。「備えあれば憂いなし」想定外にも即対応できる防災体制の構築が急がれています。

―あの日を忘れない―
語り継ぐ私の津波体験

「津波がくるよ」



大地震の後、避難しようとして、二階に上がり支度をしようとした。ふと窓から海の方を見て、黒い波がこちらに寄せてくるのが見えた。これが大変だと思ひ窓から「津波はくるよ」と怒鳴った。

が外家のび少しもんのでのととから
 がつそのしよ声ば二水格入した私
 てスの中は濡れつてから外にも
 折チは二でつてくらか戸そに出
 れール近寒は掛けてだ見てた。瞬
 ての門く引てさーいた。間、
 いた。柱津いたれた！隣つさ
 が波震がたが体は人郵がに
 ねが入えがは「がが首玄
 じ入たがはと「便局ま
 曲り。はと何が

歩くときめまいがする！

嶋田一豊さん（三川）



あの日は千葉にいて地震にあった。大きい地震だとは思わなかった。まさか津波で飯岡に被害が出ているとは思像もできなかった。幸い自宅は浸水を免れたが、飯岡バイパス沿いで経営している店が液状化による大きな被害を受けた。

店内の棚が倒れ大量の商品が崩れてがたがたになった。駐車場が陥没し、建物が北側に傾いた。最初の頃は、室内を歩くとめまいがして気分が悪くなった。修理するには多額の費用がかかる。

もっと魅力あるまちづくりをしていかないと商売もうまえないかと思う。新しい人も増

浦安市舞浜自治会が「避難所運営マニュアル」を作成

旭市を訪れ意見交換会

(九月二〇日)

浦安市は、東日本大震災で液状化による甚大な被害を受けた。その浦安市で今後の災害に備え、一浦安市舞浜小学校避難所開設・運営マニユールを作成。これをもとに旭ルーを制作。実際に避難所運営の現場を担った人たちと意見の交換を行った。

舞浜地区から二二名、飯岡地区からは一名が参加した。

尚、舞浜自治会が作成した「避難所開設・運営マニュアル」は事務局にありますので参考にした方は連絡を。



「まちづくり運動と連携の
在り方」を模索

銚子青年會議所

(九月二十四日)

た授・旭た方は委取
 戸を。に、員り銚
 ・井元講つ運会組子
 船穰気師い動（む市
 倉さんとての委地で
 武んすし活継員域ま
 夫ゝるて発続長経ち
 さ千協、なと・済づ
 ん葉議一討連岩活く
 が科会花議携瀬性り
 参学一とをの直化運
 加大会緑行在之実動
 し学長でつり）働に

